

## ひきこもりを取り巻く現状

### ■ひきこもりの定義

半年以上、学校や職場に行かず、家族以外との親密な対人関係が持てない状態が続いている場合を「ひきこもり」という(山口県ガイドライン)

15～39歳の人口のうち**1.57%**がひきこもり  
**山口県に1万2,000人**  
**山口市に1,800人と推計される**

15～39歳の人口のうち1.57%がひきこもりという調査結果(内閣府若者の生活に関する調査報告書2015)を元に、15～64歳の人口で推計

### ■ひきこもり状態になったきっかけ(複数回答)(表1)

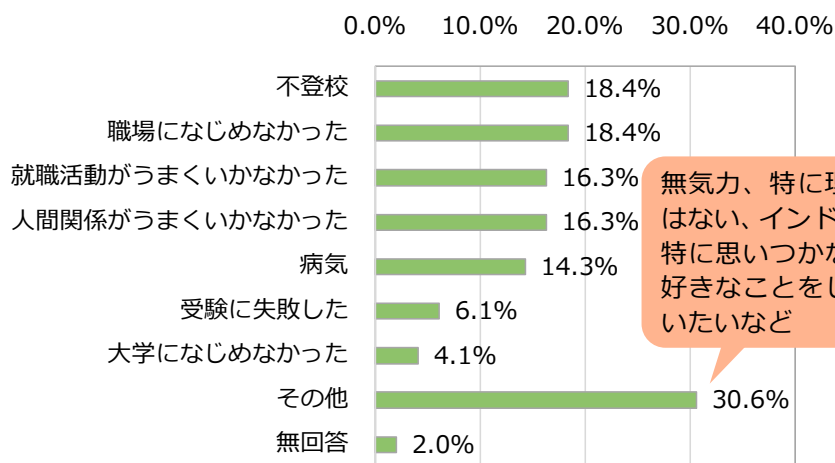
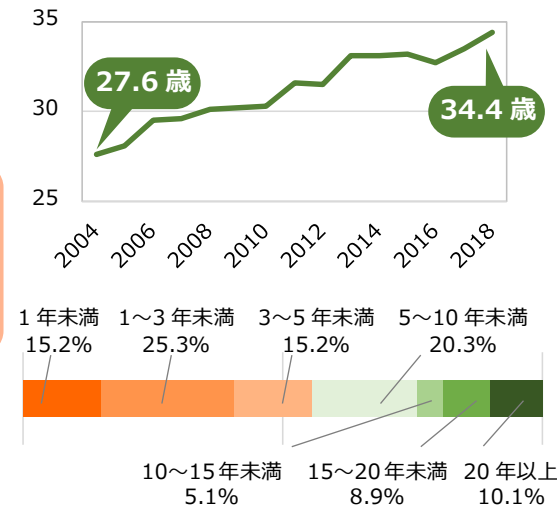


表1：内閣府若者の生活に関する調査報告書2015年  
表2.3：KHJ全国ひきこもり家族会連合会実態調査2018年

### ■当事者の平均年齢とひきこもり期間(表2.3)



平均7.2年 そのうち40歳以上の現在ひきこもり当事者の平均は19.4年

## ひきこもりの人達は支援につながっているか、相談状況から見てみると

### ■ひきこもり当事者が相談した経験(表4)

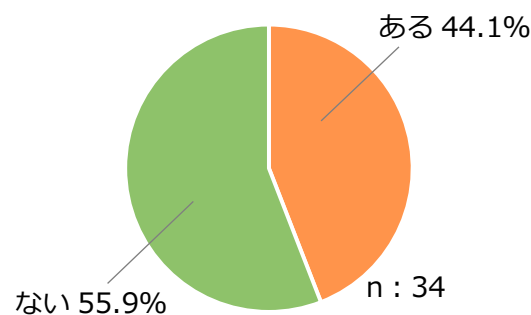
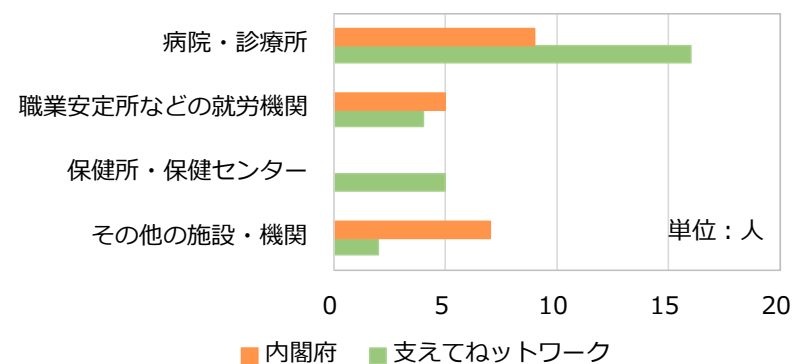


表4.5：内閣府若者の生活に関する調査報告書2015年

### ■ひきこもり当事者が相談した機関(複数回答)(表5)



### ■山口市内の各機関への新規相談件数(2017年度)

機関	相談件数	内 訳			
		中断	支援の継続	他機関を紹介	その他
医療機関(5機関のうち1機関未)	41件	14件	17件	10件	0件
行政	17件	7件	5件	4件	1件
民間機関・NPO	18件	8件	6件	4件	0件
合 計	76件	29件(38.1%)	28件(36.8%)	18件(23.6%)	1件(1.3%)

2017年度に新規相談につながったのは1,800人中76件

つまり**全体の3~4%**  
そのうち**40%は中断**

※ ハローワークなど就労機関でのデータは把握できなかった(当法人独自調査2018年度)

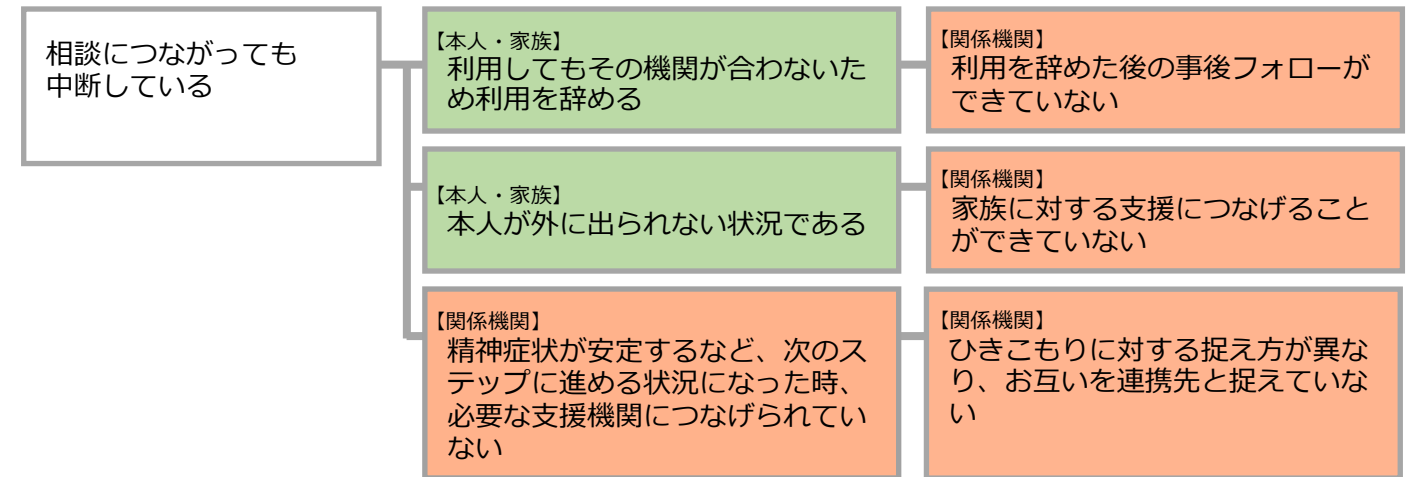
### ■中断の理由(支えてねットワークの相談状況から)

- ・家族のみの相談で本人は外出できない、コミュニケーションがとれていないといった状況にある
- ・利用してみたけどなじめなかった
- ・情報収集が目的でどんなところなのか知りたかった

### ■各機関への聞き取りから抜粋

- ・精神疾患の二次障害なのでひきこもりだと認識していない
- ・支援機関につながった時点で社会との接点はでき、ひきこもりから脱していると考えられる

## なぜ、相談が中断してしまうのか



## 課題解決へのアクション

### ■協働パートナーとその役割

本人の状況	精神症状がある	家族ともコミュニケーションがない	外出できない	外出はしても家族以外と関わりがない	社会参加・就労への意欲はあるが、自信やスキルがない	働き始めたが継続に困難を感じている
必要な支援	医療的なケア ・診断 ・服薬	家族支援 ・家族心理教育 ・家族会	アウトリーチ(訪問) ・外部との接点をもつ	外出トレーニング ・安心して過ごせる場の提供	就労支援 ・就労支援プログラム ・職場体験や企業とのマッチング	就労継続支援 ・SST(リソールスキルトレーニング) ・職場との調整
主な相談機関	↑ 医療機関	↑ 行政・NPO	↑ 行政・NPO	↑ NPO	↑ 就労機関	↑ NPO
強み	【医療機関】 服薬・治療などで、精神症状に対応診断ができる	【行政】 多様な機関と関わっている 公的支援制度の手続きができる、事業の施策化	【NPO】 どんな人でも利用できる 家族・本人支援のノウハウの蓄積がある	【就労機関】 就労に必要な具体的な技術指導 企業とのマッチング	【NPO】 同左	

### ■事業の進め方と成果

